

デンプン水和剤を用いたリンゴハダニの防除方法

落花期と落花 10 日後にデンプン水和剤を散布することによって、リンゴハダニに対する十分な防除効果が得られます。

【背景とねらい】

県内各地のりんご園地においてハダニ類の薬剤抵抗性個体群が発現し、防除が困難になっています。そこで、薬剤抵抗性発現の恐れが無い物理的作用（気門閉鎖）による殺ダニ剤（デンプン水和剤：商品名 粘着くん水和剤）の効果的な使用方法を明らかにしました。

【使用方法】

- ・ 希釈倍率：500 倍
- ・ 散布時期および回数 落花期と落花 10 日後の 2 回散布

【留意事項】

- (1) 散布時期が遅れると効果が劣ります（表 1 参照）。
- (2) デンプン水和剤は、殺卵効果や真の残効性は期待できないため、ハダニ類の生育ステージが揃っている越冬卵ふ化直後（図 1， 2 参照）の使用に適しています。
- (3) 100 リットルあたりの薬剤費は、オサダンフロアブル(2,000 倍)：832 円、粘着くん水和剤(500 倍)：420 円、コテツフロアブル(2,000 倍)：1157 円です。

表1 春期のリンゴハダニに対する粘着くん水和剤の効果

商品名(×希釈倍率)	散布時期と散布の有無			雌成虫寄生頭数/10葉				防除効率
	5/14 (落花期)	5/24 (落花10日後)	6/2 (落花19日後)	5/13	5/23	6/2	6/12	
粘着くん水和剤(×500)			-	52.5	5.8	2.0	16.3	79.1
粘着くん水和剤(×500)	-			-	25.1	2.5	16.7	61.3
オサダンフロアブル(×2000)		-	-	43.4	2.3	0.6	7.0	89.5
無散布	-	-	-	30.5	30.5	11.6	48.6	

【試験概要】 防除効率：[1-(無散布区散布前/処理区散布前)×(処理区処理後/無散布区処理後)]×100
雌成虫の寄生頭数は、2 樹 / 区、1 樹あたり 50 葉調査とし、3 反復の平均値を示した。

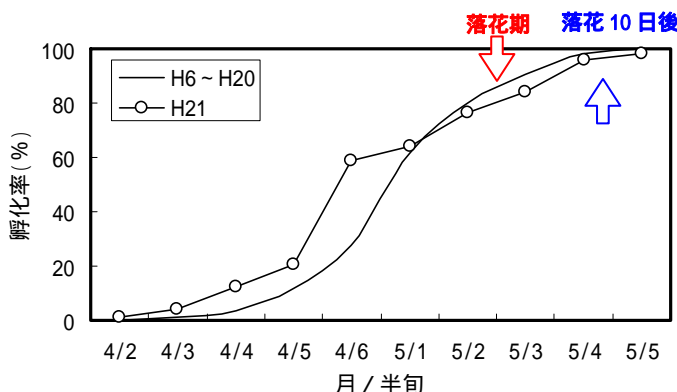


図1 岩手農研センター内におけるリンゴハダニ越冬卵の孵化状況



図2 リンゴハダニ平成 21 年 5 月 23 日
この時期は、ほぼ落花 10 日後に相当するが、すでに夏卵が産下されているため、防除開始時期としては遅い。

【適応地帯・対象者】 県内全域（りんご生産地域）

担当研究室 環境部 病理昆虫研究室
〒024-0003 北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4424 FAX. 0197-71-1085